

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（6月分）

留学先：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：奈良健一郎

学習面では次々に Exam が終わり成績も出てきました。最後に Master の授業のプレゼンテーションを初めて経験して英語力の向上を見受けられた一方、まだ他の人との英語力、知識量、プレゼン力の差を感じました。この4か月を通して語彙力と発音力が特に上がったと自分の中で感じています。この2つはただ、人と話しているだけじゃ身につかないし毎日数分の勉強が活きたと感じました。中間テストで基準点に行かなかった科目については、6月から7月にかけて再テストが行われるので、帰国予定日を超えてしまっている科目についてはなるべく早めに担当の Professor に相談して日程を早めてもらうなりしてもらったほうがいいです。

生活面では、日本に帰国する前の最後の週は日本食レストランに頻繁に行きました。もともとそのマスターにはいろいろお世話になっていたのですが、最後の1週間特にいろいろな話を聞けました。就活を控えている自分にとって社会人と話すことはとてもプラスになったと思いました。また同時にその日本食レストランに来るお客さんと話す機会なども与えてくれて、実際海外で働いている日本人の話なども聞け、勉強になりました。そのマスターとの話のおかげで、ツアーガイドしか見えていなかった自分の心に新たな可能性や選択肢が増えていきました。そのような現地に住んでいる日本人とのコネクトもすごく大切だとその時感じました。

他にも Asian Center の学生が自分達留学生のためにお別れパーティを開いてくれたり、帰る直前に誕生日を迎えた自分ために祝ってくれたりと特に Asian Center の学生の優しさを感じ、いつの間にかまだルーマニアに残りたいと思っている自分がいました。それほど彼らが自分達日本人留学生にしてくれたことは心に響きましたし、春から福井大学に来る Asian Center の学生に恩返しができればと考えています。生活面のアドバイスとしては、寮にクーラーがないので夏休みをはさむひとは気温が40度を超える環境でクーラーなしで生活することになるので、他のクーラーが設備されてある寮、またはアパートに移動することをお勧めします。他にもホームステイのようなことも可能になるかもしれないので、さらに英語を使える場が広まるし、また新たなコミュニティを作ることができます。あとは次にルーマニア・アメリカ大学に来る学生には英語だけを勉強するだけではなく、Asian Center の学生に日本語を教えてほしいです。Center の多くの学生が日本の文化・言語に興味があり自分達日本人と話すことを楽しみにしています。日本語を教える難しさを知るいい機会にもなるのでルーマニア語を教えてもらったり日本語を教えたりする交流も大切だと思いました。

帰国前に Deposit を返してもらわなければいけないのですが、最初に寮の管理者に部屋をチェックしてもらう必要があったりして、意外に時間がかかるので Deposit を返してもらう日にはなるべく早めにしといたほうが良いのと、部屋のチェックは厳しいので、もし汚れがあったら Deposit を返してくれない場合もあります。下の写真はどちらもブカレストで撮った写真で、1枚目は一緒に福井大学から行った2人と撮りました。

